

定4回生修学旅行 二見旅館にて (上)
(写真は全て定4回桜井光孝氏提供)



定4回生修学旅行
大阪城にて(下)

Acanthus

(土浦一高・旧土浦中学とその周辺の物語)

第184号 2024(令和6)年12月10日
茨城県立土浦第一高等学校
進修同窓会旧本館活用委員会
HP <http://www.sin-syu.jp/>

定4回生の修学旅行

1952〔昭和27〕年度に始まった定時制の修学旅行は、1954年度からは、4泊5日(車中1泊)で実施されるようになりました。

今号では、定4回生の修学旅行を取り上げます。
引用文中の【 】は筆者による注記です。

定4回生修学旅行行程

1954
〔昭和29〕年度の定4回生修学旅行は、次の行程で実施されました。

1日目 鉄道 船 バス 徒歩

土浦 上野 東京急行「阿蘇」 名古屋 近鉄 宇治山田 三重交通神都線 二見ヶ浦 宿

2日目 宿 夫婦岩(遊覧船) 宿 二見ヶ浦 三重交通神都線 内宮前 内宮

前 外宮 宇治山田 近鉄 頃 奈良 宿 猿沢の池 鹿苑 春日神社 若草山 大仏殿 宿

3日目

宿 観光バス 法隆寺 天王寺 大阪電気科学館 大阪城 造幣局 天満橋 京阪電車 頃 京阪三条 宿 三条大橋近く

4日目

宿 観光バス 三十三間堂 清水寺 平安神宮 銀閣寺 金閣寺 嵐山 二条城 西本願寺 京都

5日目 東京 上野 土浦

東京駅での出会い

定2回生より1日増えたために、見学先に法隆寺や大阪城・造幣局などが加えられ、東海道線車中1泊は変わりませんが、往路昼行、帰路夜行となっています。往路の東京駅で、プロレスファンの男子生徒には、嬉しい出来事がありました。プロレスラーのルー・ニューマンとハンス・シュナーベルとを見掛けたのです。

この時の喜び・驚きを、上原栄(定4回)は、『星座第5号』(1955年3月8日発行)「修学旅行」に次のように記しています。

「東京駅でレスラーで有名なニューマンとシュナーベルに会ったので嬉しくなつた。最初すごく大きい外国人が立っていて、珍しい奴だと思っていたら平根がすました顔で『ニューマンとシュナーベルだ』と言うのでどうも信用が出来なかつた。

こんな事に平根より夢中な自分が先に発見出来なかつたのが面白くなかつた。又珍しくもないと言つた顔をしてすましているやつもにくらしくなつた。ニューマンの顔を見たらなるほどそっくりである。大きいと思いつつ一般に大きい外人のこの二人をまさかと思つたのだ。神原と僕は「つばめ号」に乗つた二人を写真に撮つたので家へ帰つてからの自慢の種が出来てしまつた。……。」

ニューマンとシュナーベルとは、太平洋岸タッグ選手権者として来日し、1954年8月8日の東京都体育館における力道山&遠藤幸吉組との防衛戦では、2人掛かりの攻撃で遠藤をフォールしたことが観客を興奮・激怒させ、日本プロレス史上初の暴動事件となりました。

それより先の1953年2月1日、NHKがテレビ本放送を開始し、同年8月には、日本テレビ放送網も本放送を開始しました。日本テレビなどの民間放送局は、盛り場や駅・公園などに街頭テレビを設置し、テレビの普及を図っていました。また、放送局のみならず、受像機製造メーカーや販売店の側も、宣伝目的で、競

つて街頭テレビを設置し、自社製品の優位性を訴えていました。街頭テレビは、小さい画面にもかかわらず、特に人気番組の、プロレス・ボクシング・大相撲・プロ野球の中継には、観衆が殺到していました。

土浦でも駅前設置され、大勢の人が詰め掛けました。定4回桜井光孝もその一人で、授業を抜け出しては、プロレス観戦をしていたことを、次のように述べています。

「……。一高でも欠席はゼロでしたが、卒業時に担任の稲吉一雄先生〔理科 在籍1952年〜1971「昭和46」年〕から『桜井、お前は欠課が多いから、皆勤賞は貰えない』と言われました。

1953年7月、力道山により日本プロレスが設立され、テレビ放送も開始されました。そのテレビ中継がある日には学校を抜け出して、土浦駅前の街頭テレビを見に行つてしまいました。駅前は黒山の人大かりで身動きが出来ないくらいでした。力道山とシャープ兄弟(注2)との試合で、群衆は小さなテレビ画面に釘付け、必死に声援を送り、駅前は興奮のつぼと化していました。放送終了後、学校に戻り、先生には『配達で遅れました。』と誤魔化していたのです。自業自得で、仕方がないと思いました。……。」(『アカンサス第134号』)

上原も、同じようにテレビ観戦をしていたのでしよう。暴動事件で日本プロレス史上に名を残すことになった2人にサインを貰う勇気はなかつたのでしょうか。プロレスに興味の無い人には理解し難いことですが、ファンの思いに

は、今も昔も変わりがありません。

つばめ号

特急「つばめ」^(注1)。1930「昭和5」年10月に登場。東京・神戸間を約9時間で結び、同区間の従来の所要時間を2時間以上も短縮させたことから、当時では画期的な特急列車として脚光を浴びた。

太平洋戦争により、特急は廃止されたが、

「昭和24」年9月に戦後初の特急列車「へいわ」の運行が開始され、翌年1月には公募により「つばめ」と改称された。「つばめ」は一等展望車を連結、さらに4月からはリクライニングシート付の特等二等車の連結及び一・二等車乗客に対する座席指定を開始し、当時の日本を代表する列車となった。

シャープ兄弟

兄ベン・シャープ、弟マイク・シャープ。1954年に世界タッグ選手権者として来日し、2月19日に力道山&木村政彦とタッグマッチで対戦。この試合が日本初のプロレスの国際試合とされる。日本テレビとNHKとが同時中継し、新橋駅西口広場の街頭テレビには多くの群衆が殺到したという。初来日の際には5回対戦し、王座を保持したまま帰国した。

京都慕情

3日目の夕刻、大阪から京都に着いた一行は、三条大橋近くの宿に入りました。上原は、夕食もそこそこに、同じ班の島田・福田・葉梨と一緒に新京極に繰り出し、そこで一人の美少女と出会います。

「……。四人組はそのにぎやかな通り【新京極通り】を歩いた。歩くほとんどの者が学生だった。買う物を求めるため同じ道を何回も往復した。その内見逃す事の出来ない面白いことが一つあった。映画館の前を通過する時その向かいの店から『いらつしやいませ』という女の声があった。見ると中学を卒業したばかりく

らしいの二人の内、目のまあるい可愛い女の子が僕達を見ていた。ヘツプバーンの髪の毛^(注3)より短いオカツパで後が男の頭の様に少しかり上げてあった。それが本当に可愛いと思つた。旅行中の緊張のないのんびりしたい気分がその女の子の欠点までを喜びとして感ぜられて

いる様な気がした。羊かん屋なので買わなかつた僕は後向きになつてもその女の子と見合つていた。三人は『また一始まつた』ぐらしいの調子で僕を笑つていた。女の子の笑顔のない驚いた様子がおかしくなり僕はついに笑つてしまつた。彼女は口をつぐんだままにつこりしては

づかしそうに家のかげになつてしまつた。『もうこの先には用がない。戻ろう』そう言つて笑わせた。再び羊かん屋をのぞいて行くと顔と顔との距離が近くなつた。年若いその女の子と僕との間に瞬間的だがお互いの真面目な表情の中に何かがかよつたような気がした。そうゆう意味にとりたいた頃なのかも知れないと思つた。そう思うと僕はすぐふざけて女の子の子に向き直り笑つて見た。しかし女の子の表情はあまり変らなかつた。ヒヤリとした。商売上なるべく気をそ

らすように努めているように見えた。彼女から見て浮わつた僕の様子に矛盾を感じたに違いないと思つた。たとえそれが想像にしろそう思うことによつて沈んだ気持ちになるのが好きだつた。感傷的な泣きたい気持ちになつた。少し目の前がかすんだ。……。」

女の子にもう一度会おう、と上原は翌日の朝も新京極を訪れました。今度は羊

糞を買い、その女の子の手から受け取つた羊糞をいつまでも保存しておくつもりだったのです。しかし、店は閉まつており、期待外れの、甚だ残念な結果に終わつてしまいました。

4日目は、観光バスでの京都市内観光です。このバスのガイドさんが、たいへんな京美人で、今度は、桜井がガイドさんから離れられなくなりました。桜井はその思い出を、同じく『アカンサス第134号』で

京美人ガイドさんとの
ツーショット (上)
京都・銀閣寺にて (下)



「……。定2回生から始まつた関西への修学旅行は、本当に楽しい思い出です。旅費を工面できずに参加を断念した仲間も居たのですが、私は4年生の頃には一人前の稼ぎがあつたので行くことができました。京都でのガイドさんが大変な京美人、全国バスガイドコンテストで3位になつた人です。家に来ていた自衛隊員を通じて購入したアサヒペンタックスを持っていたので、皆を撮りました

が、私は清水寺・金閣寺・銀閣寺など、どこへ行つても、ガイドさんとのツーショットを撮ってもらおう、と側を離れませんでした。銀閣寺での写真を見る度に、級友の羨ましそうな顔が目に見えびます。家にあつた落語全集を小学生の頃から読み、覚えていたので、生来の喋りに磨きが掛かり、人が集まると『一席やれ!』と言われるほどでした。とにかく側に居たくて、ガイドさんにもその調子で話し掛けていました。今はどうしているか、できることならもう一度会いたいと思つています。……。」

と、語っています。

市内観光を終えたバスは京都駅に着。夕食を済ませ、土産物も買い終えた一行は、列車に乗り込みました。ヘツプバーンカットの美少女、ガイドさんの眼差し、さまざまな思い出を生徒たちの胸に残し、帰郷列車は、白煙を曳きながら、驀進して行きました。

ヘツプバーンの髪の毛^(注3)

没後30年を経ても、今なお愛され続けている大女優、オードリー・ヘツプバーン。

『ローマの休日』『ティファニーで朝食を』などの名作とともに、ベリーショートやボニーテールなどヘアスタイルでも魅了し、特にオードリーを象徴するショートヘアには、「ヘツプバーンカット」の名が付けられた。

当時の映画の影響は、現代では考えられないほどに大きく、1954年春に公開された『ローマの休日』『麗しのサブリナ』の影響で、1954年の夏には、日本中の女性たちの間で「ヘツプバーンカット」が大流行した。

^(注4) 帰郷列車は、白煙を曳きながら

1954年当時、東海道線は京都・米原間が非電化区間で、蒸気機関車が牽引した。